

数理・データサイエンス・AI 教育プログラム 自己点検・評価報告書

令和 5 年 4 月

岡山短期大学幼児教育学科

数理・データサイエンス・AI 教育プログラムの評価項目

プログラムの教育課程に関する事項

1. 数理・データサイエンス・AI 教育プログラムの教育課程について
 - 1-1 学生の学習成果の中に数理・データサイエンス・AI 教育を明確に示している。
 - 1-2 教育課程編成・実施の方針の中に数理・データサイエンス・AI 教育プログラムを明確に示している。
 - 1-3 入学者受け入れの方針の中に数理・データサイエンス・AI 教育プログラムへの接続学習を明確に示している。

プログラムの学生支援に関する事項

2. 数理・データサイエンス・AI 教育プログラムの学生支援について
 - 2-1 数理・データサイエンス・AI 教育の獲得に向けて教育資源を有効に活用している。
 - 2-2 数理・データサイエンス・AI 教育の獲得に向けて学習支援を組織的に行っている。

学生アンケート等を通じた、学生の内容の理解度・他の学生への推奨度に関する事項

3. 学生アンケート等を通じた、学生の内容の理解度・他の学生への推奨度について
 - 3-1 数理・データサイエンス・AI 教育プログラムの学習状況を点検している。

全学的な履修者数・履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況に関する事項

4. 全学的な履修者数・履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況について
 - 4-1 全学的な履修者数・履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況を点検している。

プログラム修了者の進路・活躍状況・企業等の評価

5. プログラム修了者の進路・活躍状況・企業等の評価について
 - 5-1 学生の卒業後評価への取り組みを行っている。

産業界等社会からの視点を含めた、プログラム内容・手法に関する事項

6. 産業界等社会からの視点を含めた、プログラム内容・手法について
 - 6-1 ステークホルダーに対して外部評価を行っている。

その他

「数理・データサイエンス・AI を「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること」について

「内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること」について

この自己点検・評価報告書は令和4年4月から令和5年3月までの数理・データサイエンス・AI教育プログラムの自己点検・評価活動の結果を記したものである。

令和5年4月

理事長

原田 博史

学長

原田 博史

1. 数理・データサイエンス・AI 教育プログラムの教育課程について

1-1 学生の学習成果の中に数理・データサイエンス・AI 教育を明確に示している。

学生の学習成果の中に数理・データサイエンス・AI 教育を明確に示している。学則施行細則第 1 条で学生の学習成果は下記の通り明示している。

学生の学習成果

本学で学ぶ学生の卒業時の学習成果は、建学の精神「教育三綱領」の基に、自律した信念のある社会人となることである。学科の専門学習では、Society 5.0 時代の現場に即応する保育者（幼稚園教諭・保育士）になるため、学科の教育課程（基礎教育科目および専門教育科目）の学習をとおして、次の学習成果を獲得する。

I. 専門的学習成果

幼児教育施設（幼稚園、保育所、幼保連携型認定こども園）の現場で、幼児教育（環境を通して行う教育）とは何かを考え、「資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を意識し、保育指針の「乳児・1 歳以上 3 歳未満児の保育」を理解し、乳児期の保育や子どもの育ちをとらえて、幼児期への学びの連続性を考えることができる能力を獲得する。

II. 汎用的学習成果

社会人として求められる態度、信念、意見、価値、コミュニケーション能力を獲得する。社会人としての責任を果たすために必要な倫理観や価値観、自己管理の能力を、また職業生活や社会生活で必要な情報リテラシーや数量的スキル、人との関わりに必要な論理的思考、自己表現、他者理解、問題解決の能力を獲得する。

汎用的学習成果に「社会人として求められる態度、信念、意見、価値、コミュニケーション能力を獲得する。社会人としての責任を果たすために必要な倫理観や価値観、自己管理の能力を、また職業生活や社会生活で必要な情報リテラシーや数量的スキル、人との関わりに必要な論理的思考、自己表現、他者理解、問題解決の能力を獲得する。」と明記しプログラムに関係する授業を配置しているが、プログラムの目的を明確にするために再点検する。

1-2 教育課程編成・実施の方針の中に数理・データサイエンス・AI 教育プログラムを明確に示している。

教育課程編成・実施の方針の中に数理・データサイエンス・AI 教育プログラムを明確に示している。学則施行細則第 1 条で教育課程編成・実施の方針は下記の通り明示している。

教育課程編成・実施の方針

卒業要件として学生が修得すべき単位数について、学生が 1 学期に履修科目として登録することができる単位数の上限を 30 単位とするため、基礎教育科目及び専門教育科目と合わせた単位の上限を 30 単位とし、可能な限り 25 単位に近づけるように科目を開講する。

専門教育科目の編成と実施

幼稚園教諭二種免許状取得に必要な科目と、保育士資格取得に必要なカリキュラムを編成する。授業の実施は、専門的学習成果のみではなく汎用的学習成果をも獲得できるように実施する。

基礎教育科目の編成と実施

免許法施行規則の第 6 6 条の 6 に定める科目と共に、卒業後、公務員となる公務員養成コース及び

Society 5.0 時代の保育者となる Society 5.0 保育者養成コースに必要な授業科目を編成する。意欲ある学生に対して図書館司書を取得できる科目を編成し、実施する。

令和4年度FD・SDワークショップでディプロマ・サプリメントについて取り上げ情報共有を図った。令和5年度の卒業生からディプロマ・サプリメントを作成に数理・データサイエンス・AI教育プログラムの可視化を図る。

1-3 入学者受け入れの方針の中に数理・データサイエンス・AI教育プログラムへの接続学習を明確に示している。

入学者受け入れの方針の中に数理・データサイエンス・AI教育プログラムへの接続学習を明確に示している。学則施行細則第1条で入学者受け入れの方針は下記の通り明示している。

入学者受け入れの方針

本学に入学する人物には、次のような資質・能力を求める。

- ・自分のなりたい保育者像が明確である。
- ・子どもが好きで、心身ともに健康で、何事にも積極的である。
- ・幼稚園教諭免許と保育士資格の両方を取得し、卒業後保育者として働く意志が強い。
- ・Society 5.0 時代に必要なスキルの修得意識が強い。
- ・本学での学習に必要な一定水準の学力を身に付けている。
- ・体育や図画工作、音楽が好きで、特にピアノについては、基礎技能を身に付けようと努力できる。

令和5年度募集の入学者受け入れの方針の中に「Society5.0時代に必要なスキルの修得意識が強い」という資質・能力を求めた。「Society5.0時代に必要なスキルの修得意識が強い」について評価したが、受験生の意識が萌芽的であり求めるところまで達していないのが現状である。今後オープンキャンパスや進学ガイダンス等で説明して接続学習を行う。

2 数理・データサイエンス・AI教育プログラムの学生支援について

2-1 数理・データサイエンス・AI教育の獲得に向けて教育資源を有効に活用している。

数理・データサイエンス・AI教育の獲得に向けて教育資源を有効に活用している。B203教室のoffice搭載Windows10のデスクトップパソコンを活用し数理・データサイエンス・AI教育の獲得を図っている。

2-2 数理・データサイエンス・AI教育の獲得に向けて学習支援を組織的に行っている。

数理・データサイエンス・AI教育の獲得に向けて学習支援を組織的に行っている。令和3年度より全学的にLMS（公式MOODLE）を導入し学習支援の一助となっている。Covid-19の感染拡大によりMoodleを導入したが、下記の通り一定の評価を得ていると考える。Moodleの活用法を研究し次年度以降に反映させる。

1. 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）拡大時の遠隔授業による学生の学習成果及び対面授業時の感染防止対策実施結果に関する自己点検

1-1. アンケート調査実施の目的

遠隔授業による学生の学習状況及び対面授業時の感染予防対策実施の点検のために、幼児教育学科
1・2年生および学科教員を対象とするアンケート調査を実施した。

1-2. アンケート用紙、集計結果およびまとめ

A 学生対象のアンケートについて

a アンケート用紙

新型コロナウイルス感染症（Covid19）拡大時の遠隔授業および対面授業時の感染防止対策実施に関するアンケート

このアンケート調査は、皆さん方の今後の学習・学校生活改善のために実施いたします。

1, Moodle による遠隔授業について

(1) 本年度前期・後期に Moodle による遠隔授業を実施しましたが、あなたはその授業を受けましたか。前期・後期それぞれ該当するものに○印を付けてください。

・前期→ (受けた ・ 受けなかった)

・後期→ (受けた ・ 受けなかった)

(2) 遠隔授業を受けた方だけ回答してください。その授業についてあなたはどのように評価しますか。一つだけ○印を付けてください。

・たいへん良い

・ある程度良い

・どちらとも言えない

・あまり良くない

・まったく良くない

(3) 遠隔授業を受けた方だけ回答してください。良かったと思うのは、どのような点ですか。具体的に書いてください（複数回答可）。

(4) 遠隔授業を受けた方だけ回答してください。改善してほしいと思うのは、どのような点ですか。具体的に書いてください（複数回答可）。

2, 対面授業時の感染予防対策実施について

(1) 本学は、「教職員及び学生の新型コロナウイルス対策の行動指針」を制定し、感染予防に努めてきました。授業においても健康状態のチェック・マスク着用・換気などの対策を行っていますが、その対策についてあなたはどのように評価しますか。一つだけ○印を付けてください。

・たいへん良い

・ある程度良い

・どちらとも言えない

・あまり良くない

・まったく良くない

(2) 良かったと思うのは、どのような点ですか。具体的に書いてください（複数回答可）。

(3) 改善してほしいと思うのは、どのような点ですか。具体的に書いてください（複数回答可）。

※ご協力ありがとうございました

b 集計結果

「1, Moodle による遠隔授業について」

項目（１）

項目	学年		合計
	１年	２年	
前期のみ受けた	４	１５	１９
後期のみ受けた	３	３	６
前期・後期受けた	１	１	２８
前期・後期受けなかった	２２	２０	４２
合計	３０	３９	６９

項目（２）

項目	学年		合計
	１年	２年	
たいへん良い	０	１	１
ある程度良い	２	２	４
どちらとも言えない	５	６	１１
あまり良くない	０	４	４
まったく良くない	１	６	７
合計	８	１９	２７

項目（３）

※括弧内の数字は人数。（以下同様）

【１年】

- ・欠席せざるを得なかった授業を出席にすることができる。（２）
- ・パソコンの授業の時に Moodle を利用しています。利用しやすいです。（１）
- ・分からないところがあると、先生の対応が早い。（１）
- ・コロナで家から出られなかったけれど、スマホ・パソコンで簡単にできて良かった。（１）

【２年】

- ・欠席扱いにならない。（４）
- ・説明が分かりやすい。（２）
- ・家でできる。（２）
- ・コロナを気にせず受けることができる。（１）
- ・好きな時間に課題ができる。（１）
- ・学校に行かなくてもよい。（１）

項目（４）

【１年】

- ・Moodle に入って授業科目を探すのが面倒だ。コロナになりたくなったのではないのに、こういうことをするのは分からない。（１）
- ・エクセルや他の有料アプリを使わないとできないものもあったので、少し困りました。（１）
- ・科目によって指示のタイミングがバラバラで少し分かりづらかった。（１）
- ・エラーによって代替授業の課題が開かないことがあった。（１）
- ・分からないことがある。（１）
- ・初めてのことで提出の仕方が分からなかった。（１）
- ・レポートばかりだったので、大変だった。（１）

【２年】

- ・課題が提出できているのか不安、通知が来ないので分かりにくい。（２）
- ・どの課題をすればよいのかが分からない。（１）
- ・課題の提出の仕方や内容について、文面だけでは分かりにくいところがあった。

- (1)
- ・提出課題のページを探すのに迷った。(1)
 - ・提出期限が短い。(1)
 - ・熱がある中であるのはしんどい。(1)
 - ・体調不良がひどい場合の配慮がなかった。(1)
 - ・体調不良なのに課題が多すぎた。だったら Zoom 授業にしてほしかった。参加して見るだけならしんどくなかったのでは。(1)
 - ・課題が多すぎる。先生によって課題の質や提出期限が違うことが分かりづらい。
- (1)
- ・教科書を持って帰っていなかったとき、どう取り組めばよいか分からなかった。
- (1)
- ・テストのことが伝わらなかった。(1)
 - ・課題を印刷したりルーズリーフなどを書いて撮影してメールで送ったりしないといけなかった。(1)
 - ・学校に行っている人と差ができた (テストなど)。(1)
 - ・コピーしないといけないのが面倒、分かりにくい。(1)
 - ・Moodle の使っていない科目を消してほしい (同じようなものがあったら分かりにくい)。(1)
 - ・量が多い。教科書が学校にあったので、テキストの写真も付けてほしい。(1)
 - ・遠隔授業の向上。(1)

「2. 対面授業時の感染予防対策実施について」

項目 (1)

項目	学年		合計
	1 年	2 年	
たいへん良い	6	9	15
ある程度良い	12	8	20
どちらとも言えない	7	18	25
あまり良くない	3	1	4
まったく良くない	0	3	3
回答なし	2	0	2
合計	30	39	

項目 (2)

- 【1 年】
- ・授業毎の健康チェック (健康状態を確認できた) (4)
 - ・換気をした。(3)
 - ・マスクを着用した。(3)
 - ・いろんな対策ができていた。(2)
 - ・消毒を行った。(2)
 - ・間隔を空けた着席。(2)
 - ・ソーシャルディスタンス (1)
 - ・消毒用アルコールを置いている。(1)
- 【2 年】
- ・消毒用アルコールを置いてある。(4)
 - ・こまめに換気をした。(4)
 - ・授業毎の健康チェック。(2)
 - ・体調が悪かったらすぐに言える。(2)
 - ・職員による机などの消毒。(1)

- ・マスクを忘れた人にマスクをあげる。(1)
- ・コロナに関する行動が早かった。
- ・こまめな声かけ。(1)
- ・先生もしているから学生もしやすい。(1)
- ・良いにおいのするアルコールジェルが置いてある。(1)

項目 (3)

【1年】

- ・もっと換気をしてほしい。(2)
- ・マスクをはずしたまま喋っている人がいる。(1)
- ・マスクをしていない人がいる。(1)
- ・コロナ感染者が出て対策を何も変えないところ。(1)
- ・加湿器がほしい。(1)
- ・寒い。(1)
- ・もっと自由席にしてほしい。一般公開の大学祭をしたい。(1)

【2年】

- ・学内にコロナに感染している人が出たら伝えてほしい。(3)
- ・バスの時間をずらす。コロナに関する情報をもっと学生に伝えるべき。(1)
- ・バスの便を増やす。(1)
- ・マスクを付けないで話す人がいる。(1)
- ・健康チェックは体調が悪かったとしても手を挙げにくい。(1)
- ・最近換気をしている感じがしない。(1)

c 集計結果のまとめ

○Moodleによる遠隔授業について

否定的評価が肯定的評価より多く、昨年度より今年度の方が学生の評価は低い。今年度は26%が「まったく良くない」と回答している(昨年度はいない)。学生は、出席扱いになり、コロナ感染の不安がなく自分のペースで学習できる点を肯定的に評価している。また、改善の希望は、1年でMoodleの操作に関すること、2年で課題に関することが多い。

○対面授業時の感染予防対策実施について

51%の学生が肯定的に評価しており(昨年度84%)、その理由として、本学が一昨年以来実施してきた「換気」・「健康チェック」・「間隔を空けた着席」・「マスク着用」・「消毒用アルコールの設置」・「消毒」をあげている。他方、「どちらとも言えない」・「あまり良くない」・「まったく良くない」と回答した学生が増えている。それらの学生が希望しているのは、感染予防対策の強化、感染者情報の提供などである。

B 教員対象のアンケートについて

a アンケート用紙

【幼児教育学科教員用】

氏名 ()

新型コロナウイルス感染症 (Covid19) 拡大時の遠隔授業および対面授業時の感染防止対策に関する

アンケート

このアンケート調査は、遠隔授業による学生の学習状況および対面授業の感染予防対策実施新型コロナウイルス対策の行動指針の点検のために実施いたします。

1, Moodleによる遠隔授業について

→・前期に遠隔授業を (実施した ・ 実施しなかった) ※いずれかに○印を付けてください。

・後期に遠隔授業を (実施した ・ 実施しなかった) ※いずれかに○印を付けてください。

(1) 遠隔授業を実施した方のみ回答してください。遠隔授業についてどのように評価します

か。一つだけ○印を付けてください。

- ・遠隔授業の手法・内容は学生の学習成果を獲得する上で適切であった
- ・遠隔授業の手法・内容は学生の学習成果を獲得する上である程度適切であった
- ・遠隔授業の手法・内容は学生の学習成果を獲得する上で不十分であった
- ・遠隔授業の手法・内容は学生の学習成果を獲得する上でまったく機能しなかった

(2) 遠隔授業を実施した方のみ回答してください。適切であったと評価した遠隔授業の手法・内容等を具体的に書いてください(複数回答可)。

--

(3) 遠隔授業を実施した方のみ回答してください。不十分・機能しなかったと評価した遠隔授業の手法・内容等を具体的に書いてください(複数回答可)。

--

2, 対面授業時の感染予防対策実施について

(1) 本学は、「教職員及び学生の新型コロナウイルス対策の行動指針」を制定し、感染予防に努めてきました。授業においても健康状態のチェック・マスク着用・換気などの対策を行っていますが、その対策についてどのように評価しますか。一つだけ○印を付けてください。

- ・たいへん効果があった
- ・ある程度効果があった
- ・あまり効果がなかった
- ・まったく効果がなかった

(2) 効果があったと評価した対策を具体的に書いてください(複数回答可)。

--

(3) 効果がなかったと評価した対策を具体的に書いてください(複数回答可)。

--

※ご協力ありがとうございました(浦上博文までお返しく下さい)

b 集計結果

「1, Moodle による遠隔授業について」

項目(0)→Moodle による遠隔授業を

前期のみ実施した	4名
後期のみ実施した	0名
前期・後期共に実施した	8名
実施しなかった	6名

項目(1)

遠隔授業の手法・内容は学生の学習成果を獲得する上で適切であった	0名
遠隔授業の手法・内容は学生の学習成果を獲得する上である程度適切であった	6名
遠隔授業の手法・内容は学生の学習成果を獲得する上で不十分であった	6名
遠隔授業の手法・内容は学生の学習成果を獲得する上でまったく機能しなかった	0名

項目(2)

- ・全授業の学生配付、パワーポイントの内容をPDFにし、Moodleに掲載していただいた。欠席せざるを得ない学生にも学びの場を提供し、授業資料、課題フィードバック、重要ポイント資料を内容にした。(1)
- ・Moodleに授業内容を掲載。授業後に講義内容の確認と課題の提出。課題は重要ポイントの穴埋め式。(1)
- ・実技なので、制作の説明ができれば採点は他の学生のものとはほぼ同じように採点ができた。但し、他の学生とともに制作をしているわけではないので、構想を練る際の広がりや、ともに制作をすることで生まれる学び合いなどの成果は不十分であったかもしれない

い。

- ・適切という点では返答しづらいです。ないよりは課題があったほうがよかったのであろうという程度です。(1)
- ・授業プリントと該当する教科書の範囲を示したので、教科書を参考に自分で学習することができた。(1)
- ・幼児と環境の Moodle で授業の内容を教科書に沿って知らせて、レポートにまとめてくるようにした。学生は教科書を読み、課題をして Moodle で送信してくるようにした。(1)
- ・授業内容を教科書を元にまとめをしたり、課題与えたりして提出するように促した。自分で考えたりまとめたりすることにより授業の遅れはないように努めた。(1)

項目 (3)

- ・学生がテキスト等を自宅に持ち帰っていないため、授業内容とは内容が一致せず、結果的に不十分であったと思います。(1)
- ・テキスト形式の手法のみであったため。(1)
- ・課題の提出によって、専門的学習成果の獲得はある程度可能かもしれないが、それらを含んで展開される多様な「教育」という営みが大学で展開されていることを考えると、やや疑問点が生じるため。(1)
- ・対面と遠隔の両方で進めることにより、学生理解に差異が生じたためです。(1)
- ・手法：Moodle による課題の提示と回収を行った。内容：演習科目のため、教科書に沿った課題の提示を行い、成果物を提出させた。(1)
- ・パソコンがある学生は、すぐ送れたが、スマートフォンで送る学生は、長い文章を送るのに、手間取っていた。又、教科書を学校のロッカーに入れている学生は困って、友達に教科書を写真で撮り送ってもらっていた。(1)
- ・演習が多い場合、Moodle で行うのは困難である。(1)

項目 (1)

たいへん効果があった	3名
ある程度効果があった	10名
あまり効果がなかった	5名
まったく効果がなかった	0名

項目 (2)

- ・レッスン室の使用は1名で（原則）。個別レッスンの時は窓を少し開け、換気しながら実施。ピアノを弾く時は消毒を促した。個別レッスン時は、学生も教員も必ずマスクを着用しました。(3)
- ・毎回、健康状態を確認することで学生への注意喚起、意識づけになったと思う。(3)
- ・新型コロナウイルス感染症が疑われる症状がある時点で、代替授業の対応を取っていることです。ウイルスが学内に持ち込まれるリスクを減らすことにつながっていると思います。(1)
- ・席の指定があったので、ある程度の密は防げた。(1)
- ・毎回授業時に健康状態のチェックをすることで、学生への意識づけ（感染予防・体調不良の場合は欠席をしなければならないこと）や動機づけとなった。マスク着用・換気の呼びかけをし、体調を気づかう一言を添えた。(1)
- ・毎回声掛けをし、マスク着用の呼びかけをして感染拡大をここまでできたのだと感じる。放課後の学生の様子などを見ると、授業での対策がなければかなり深刻な感染状況になったのではと思う。(1)
- ・学生の意識を高めることには、多少なっていると思う。マスクはもう習慣になっている。(1)

- ・感染者が少なかった。(1)
- ・窓開け、換気、席ディスタンス、密にならない演習課題の設定。(1)

項目 (3)

- ・学内で多数の感染者が出ているので、あまり効果があったとは思えません。マスク着用・アルコール消毒など更に徹底する必要を感じています。(1)
- ・健康状態のチェックを口頭でしていますが、きちんと把握できたのか、不安でした。体温チェックは、自己管理もよいのではないかと思います。(1)
- ・教員の目が届かない状況（自主練習の時など）では仕方がない。(1)
- ・健康状態チェックは、手を挙げる学生がいなかった。みんなの前で言うのは、抵抗があるのではないかとされる。一番うつりやすい食事の時は、楽しみの時間で離れて食べるのは、難しい。(1)
- ・使用した机、椅子等の消毒ができていない。健康チェックの質問事項に「いる」があった場合の処置をどのようにするのか、指示がない。(1)
- ・食堂や休憩時間ではマスク着用せず近距離で話をする姿がみられた。感染状況が心配になるなかで学生はどれほど意識しているか懸念される。また、教室入口や校舎内に消毒液が少なかったり教室入口に見かけない場合もあったりするため、徹底するのがよいと感じます。(1)
- ・質問に対する直接的な回答ではなく申し訳ありません。前期にクラスターが発生しましたので、現在の行動指針に不足している部分があったかもしれません。ただし、それは行動指針の内容に不備があったのか、それとも行動指針が適切に実施されていなかったのか、検証してみないとわからないことだと考えます。個人的には、教室などでの学生の飲食（学則施行細則で禁止されています）の場面に感染のリスクがあるのではないかと感じています。(1)
- ・換気をするため、窓を開けようとしたが、気温が高くなるにつれ、カーテンなどで塞ぎ、換気が十分でなかった。(1)
- ・授業前の健康状態チェックにおいて、申し出る者がいないため、個人で提示できるものを作成するほうが良いと思う。(1)
- ・マスクやソーシャルディスタンスなども含め、現在の新型コロナウイルス感染症の状況や科学的知見に基づいた対応となっているかの再検討を経たものでないため。(1)

c 集計結果のまとめ

○Moodle による遠隔授業について

12名の教員がMoodleによる遠隔授業を実施した。やや肯定的に評価した者が6名、やや否定的に評価した者が6名である。教員が昨年度の反省を生かして効果的な活用を心がけており、そのことが肯定的評価の理由である。否定的評価の理由として、Moodleによる遠隔授業の困難さが挙げられている。

○対面授業時の感染予防対策実施について

18名のうち、「たいへん効果があつた」と評価している者が3名、「ある程度効果があつた」と評価している者が10名である。「あまり効果がなかった」と評価している者は5名である。「効果があつた」と評価する教員からは、本学の感染予防対策が一定の効果を上げている（感染が一定抑えられている）こと、健康チェックが学生の感染予防の意識付けになっていることなどが理由として挙げられている。「あまり効果がなかった」と評価する教員からは、感染予防対策の弱さ、難しさ（健康チェック、昼食休憩時の指導など）を指摘し対策の見直し、改善を要望する意見が出ている。

1-3. 自己点検結果

○Moodle による遠隔授業について

教員に比べて、学生は低く評価している。教員は様々な工夫を行っているが、今後遠隔授業でMoodleを使用する際に、学生の要望に応えた改善（1年ではMoodleの操作、2年では課題）をさらに行うことが重要である。

○対面授業時の感染予防対策実施について

教員に比べて、学生は低く評価している（昨年度、教員・学生ともに本学の対策を「効果があった」「良い」と認める割合が高かった）。今年度本学でクラスターが発生し、感染対策に対する学生の不安感が高まったためと思われる。これまでの感染対策を見直し、改善、強化することが今後求められる。

3 学生アンケート等を通じた、学生の内容の理解度・他の学生への推奨度について

3-1 数理・データサイエンス・AI 教育プログラムの学習状況を点検している。

令和4年度においては、数理・データサイエンス・AI 教育プログラムの授業科目の内容のPDCAサイクルの確認や授業参観などの点検が出来ていない。令和5年度で数理・データサイエンス・AI 教育プログラムを点検し改善を図る。

4 全学的な履修者数・履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況について

4-1 全学的な履修者数・履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況を点検している。

プログラムの全学的な履修者数・履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況を点検している。

令和3年度実績について、履修者数54人中修了者数は47名であった。（87.0%）

令和5年度以降は100%目標を達成するために、入学生対象のオリエンテーションから本プログラムの目的と意義について説明し、学生自身が目標を持って履修するよう指導する。また、卒業生アンケート及びステークホルダーに対して外部評価を確実に実施しPDCAサイクルを廻すことで改善を図る。

学部・学科名称	学生数	入学定員	収容定員	令和4年度						令和3年度					
				履修者数			修了者数			履修者数			修了者数		
				合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性
幼児教育学科	96	70	140	47	2	45	0	0	0	54	3	51	47	2	45

5 プログラム修了者の進路・活躍状況、企業等の評価について

5-1 学生の卒業後評価への取り組みを行っている。

学生の卒業後評価への取組として、卒業生アンケートを毎年実施しFD・SDワークショップで報告し情報共有を図っている。令和4年度FD・SDワークショップの報告内容は下記の通りである。

数理・データサイエンス・AI 教育プログラムに関係する卒業後評価は十分に出来ていないため、プログラムのPDCAサイクルを廻すことが出来るようアンケート項目の点検を図り実施する。

数年来の課題は「アンケート結果から得られたものを教育に反映していく議論の場を学科で持っているか」であったが、本年も機会を持っていない。学科教員間であれば返送されたアンケート原本を閲覧することは可能と考えており、過去には閲覧希望教員がいた。対応策としては郵送したアンケートがほぼ返却される令和5年1月にまとめ、2月の学科FD会議で報告する。

7-1. アンケート送付に関して

送付数は29園（30人分）であった。就職担当者に直接連絡があった早期離職者4名及び公務員1名

は除いている。その内訳は専門職（保育所18、幼稚園2、幼保連携型認定こども園3、幼稚園型認定こども園4、保育所型認定こども園1、施設2）である。

調査方法に関しては教員が就職御礼や卒業生への励ましも兼ねてアンケート用紙を持参していたが、令和2年度以来、コロナ禍に鑑みて訪問を自粛している。アンケート用紙を郵送し、調査自体は継続している。

就職活動においては本人の意思を重視している。就職先を選ぶ際、実習先でない場合は必ず見学やボランティアを経て受験先を決定するように勧めている。

7-2. 専門的学習成果に関して

アンケート回収中

7-3. 汎用的学習成果に関して

アンケート回収中

7-4. 自由記述欄（本学に対する意見や要望、アンケートに関する感想）に関して

アンケート回収中

【参考：R4 送付アンケート】

「学習成果に関するアンケート調査のお願い（※新卒者対象）」

お忙しいところ、本学卒業生の学習成果に関するアンケート調査にご協力下さいまして、誠にありがとうございます。このアンケートは、本学卒業生の学習成果の獲得度合いを把握し、今後の教育に反映させることを目的としています。ご協力のほど、何卒よろしくお願いいたします。

＜ 回答上の注意 ＞

1. ご回答は、他の回答と共にコンピュータ処理して統計データとして扱い、園が特定される形で回答が出ることはありません。ありのままをご回答くださるようお願いいたします。

2. 回答項目が用意されている質問では、ふさわしい回答の回答欄に○印をご記入ください。

3. 自由記述の回答欄が用意されている質問では、その中に回答を具体的に記入ください。

問1 本学における「専門的学習成果」の修得に関しておうかがいします。

貴園へ就職してからの本学卒業生の姿をご覧になり、以下に挙げたような、専門職としての保育に関する基本的な知識・技術、自覚・意欲・態度等が身についているかご回答ください。

以下の各質問について、「全くあてはまらない」から「よくあてはまる」までの選択肢のうち、最もふさわしい選択肢に○をつけてください。

		全くあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	よくあてはまる
＜例＞ 子どもの発達を理解している ----->				○		
1	子どもの当該年齢の発達課題を一応理解している					

2	それぞれの家庭にそれぞれの生活実態が存在するという見識が一応ある					
3	それぞれの子どもの個性を把握できている					
4	子ども同士で互いに尊重する心を育てるという視点がある					
5	研修や事例検討会等、自分自身の専門性を向上させる取り組みに参加している					
6	豊かな感性と愛情をもって子どもと関わっている					
7	それぞれの年齢に合った遊びを計画できている					
8	子どもを温かく受容できている					
9	遊びを通じての指導が出来る					
10	幼児との信頼関係作りが出来ている					
11	子どもの安全に配慮した活動が出来ている					
12	子どもの健康や衛生面に配慮した生活環境を構築できている					
13	適切な保護・世話をしている					
14	子どもが安定感と信頼感をもって活動できるよう働きかけ出来ている					
15	子どもの人権に配慮できている					

問2 本学における「汎用的学習成果」の修得に関しておうかがいします。

貴園へ就職してからの本学卒業生の姿をご覧になり、保育活動だけでなく一般社会人として、以下に挙げたような自覚・意欲・態度等が身についているかご回答ください。

以下の各質問について、「全くあてはまらない」から「よくあてはまる」までの選択肢のうち、最もふさわしい選択欄に○をつけてください。

		全くあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	よくあてはまる
1	どんな仕事でも、熱意を持って取り組んでいる					
2	子どもの手本となっている					
3	不明なことがあったら、調べたり確認したりしている					
4	相手の気持ちに配慮している					
5	自分と異なる意見でも冷静に聞いている					
6	自分自身の失敗から、次の課題を見つけている					
7	人の話を最後まで聞いている					
8	自分自身の体調管理が出来ている					
9	園のルールや公共のルールを守っている					
10	正しいマナーを身につけている					

問3 貴園についてお聞かせください。以下の各質問について、それぞれご回答ください。

- (1) 施設の種類： 1 幼稚園 2 保育所 3 幼保連携型認定こども園 4 幼稚園型認定こども園
5 保育所型認定こども園 6 保育所以外の児童福祉施設 7 その他 ()

- (2) 経営形態 : 1 公立 2 私立 3 公設民営 4 その他 ()
(3) 所 在 地 : () 都道府県

問4 本学に対して、ご意見やご要望がございましたら、自由にお書きください。

問5 今回のアンケートに関して、ご意見やご感想がございましたら、自由にお書きください。

8. 平成30年3月、平成31年3月、令和2年3月卒業生アンケートについて

岡山短期大学幼児教育学科を平成30年3月、平成31年3月、令和2年3月に卒業した者を対象に、学校全体及び授業に関する意見聴取を目的としたアンケート実施した。

8-1. 方法

Google の Google Forms を活用し、アンケートを作成した (図1)。質問項目は以下に示す通りである (表)。回答は匿名となっており、個人の特定が難しいよう配慮した。対象は、岡山短期大学幼児教育学科を平成30年3月 (79名)、平成31年3月 (60名)、令和2年3月 (61名) に卒業した者とした。回答依頼については、Social Networking Service (SNS) を用いて各代の代表に情報を提供し、その情報をその代の全員に周知してもらうよう依頼した。

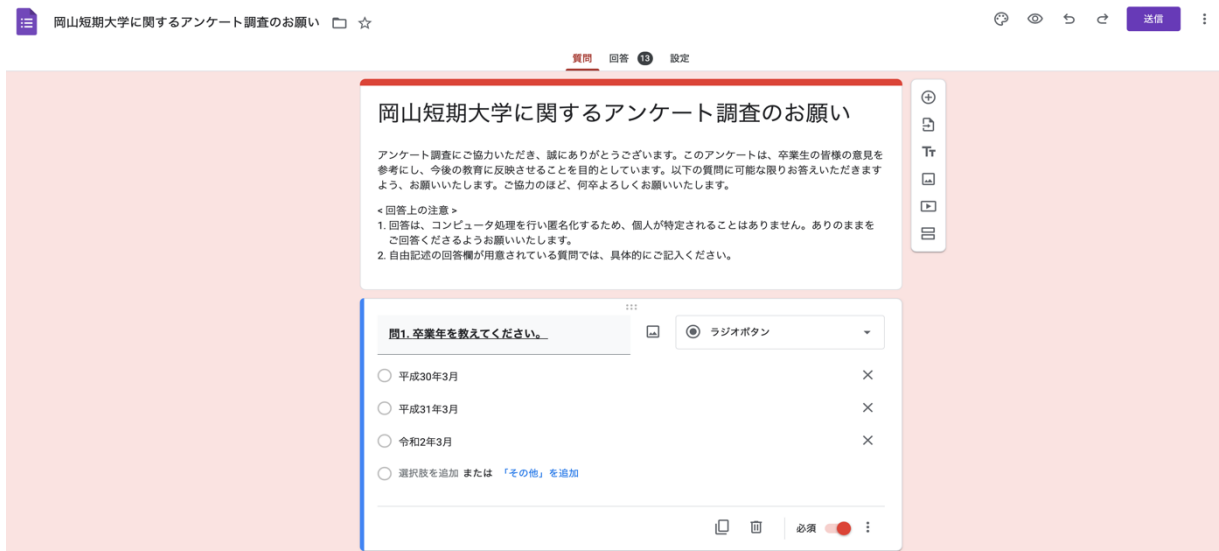


図1. アンケートの作成の様子

表1. 質問事項

問1. 卒業年を教えてください。

『平成30年3月、平成31年3月、令和2年3月』

問2. 職種を教えてください。

『保育士、保育士 (保育所以外の児童福祉施設)、幼稚園教諭、保育教諭、その他』

問3. 短大の授業でためになったと思ったことは何ですか。

問4. 短大の授業でやってほしかったということはありませんか。

問5. 学校全体に対して、良かったことはなんですか。(学校生活や施設・設備等を含む)

問6. 学校全体に対して、ご意見等ありますか。(学校生活や施設・設備等を含む)

8-2. 集計結果およびまとめ

回答人数は13名であった。集計結果は以下に示す通りである。

「問1. 卒業年度を教えてください。」

平成30年3月 4名

平成31年3月 8名

令和2年3月 1名

「問2. 職種を教えてください。」

保育士 2名

保育士（保育所以外の児童福祉施設） 2名

幼稚園教諭 1名

保育教諭 1名

その他 5名

「問3. 短大の授業でためになったと思ったことは何ですか。」

- 表現、工作。
- 他人への寄り添い方、ピアノの音作りや弾き方、他人と関わる前に自分の目で見極める必要性があるという事。
- ピアノの授業。
- 手遊び。
- 実習と実習準備に関する事。
- 保育だけでなく、人間性や人と関わることの楽しさを学べました。
- 子どもについて知れた。
- O先生に出会えたこと。
- なし。
- 臨床心理学。
- ピアノ。

「問4. 短大の授業でやって欲しかったということはありますか。」

- 特になし。
- たくさんの書類（雑務書類、個別指導案、引き継ぎ時に確実に押さえておいたほうが良いと思われる情報のまとめ方等）。
- 連絡ノート書き方、季節に合った制作。
- 避難訓練、交通安全指導、発表会の衣装づくり、かんしゃくをおこす子やグレーな子などへの対応。
- 指導案の書き方を詳しく、発達障害に関する事。
- 授業内実習増やしたらもっと身につくと思う。

- 療育について（発達検査の種類、特性のある児への対応方法、自閉症療育のベースとなる teach の考え方とその他の療育プログラム等）。
- 実技
- もっとためになる授業

「問 5. 学校全体に対して、良かったことはなんですか。（学校生活や施設・設備等を含む）」

- 食堂や売店があったこと。教師との距離感が近かったこと。
- ピアノの台数が多い、体育館が広い。
- 先生と生徒との距離が近くどんなことでも相談しやすい環境だったこと。
- 相談しやすい。
- 友人ができた、先生や事務の先生が親しみやすかった。
- 行事が楽しかった！先生と距離が近くて相談などしやすかった！
- 購買がよかった。
- 0 先生がいたこと。
- ピアノの数
- 事務の先生含め、先生がみんな優しかった。
- 友だち先生方との出会い。

「問 6. 学校全体に対して、ご意見等ありますか。（学校生活や施設・設備等を含む）」

- 特になし。
- 特になし（絞り出すとすれば交通面が不便な所）。
- 寒い、全体的に暗い。
- トイレが汚い、寮が古い、イベントがショボい。
- 教室移動少なくしてほしい。
- 実際に現場で経験されている先生が少なく、現実的な話が少なくように感じる。学生が書いた指導案を見た際に、職員が活動等の見本を提示することを表す言葉として、デモと書いている方が数名いたが、現場ではあまり使われないと思った。リハ職や保育士、教師等それぞれで表現方法に違いはあると思うが、基本を教える学校としては日本語で伝えたら良いのではと思った。また、保育士や幼稚園教諭の資格を取得したからといって、保育を行うとは限らない為、学生の選択肢を広げる為にも、多様性のある教育プログラムであると、学校の魅力が上がると思う。

- 無駄な教室が多い。
- 学祭をもっと盛り上げて、楽しみたかった。
- トイレが汚くて少し潔癖のある私には特定のトイレしか行けなかったです。私の職場では実習生に対して実習で挫折し保育士になりたくないと思われよう（保育士人手不足の為）あまり言わず優しくしていますが最近の子達の実習態度が気になります。岡短の子の場合自分が通っていた短大だからこそすみませんと私自身がなるので態度の事などもっと短大の方から言った方が良いのではと思います。短大時代楽しかったのは先生方友だちのおかげです。夢だった保育士になる事ができ働いてこそ気になるところもあるんですけどね。

私たちの代の先生でもう退職されている先生が多いことに驚き寂しすぎます。（今通っている子に話を聞いたところ）今はバーベキューがあったり動物を飼ったりしているとお聞きしどこを目指してるのと思う反面、私たちの時より半分以上も人数が減っていることに対しての人を寄せためなのかなとも思います。岡短が無くなるのは寂しいのでもっと学生を呼び、生き延びてほしいです。

- 短大で学んだことはあまり覚えてないが、体で実際に体験するとよく身についた。

アンケートの回収率は 6.5%（13/200 名）であった。今回は SNS を活用し、アンケートの依頼を行った。このことに関しては、迅速かつ簡潔な方法であったと考える。ハガキ等を使用して案内（URL や QR コードなど）を郵送するなどの案も出たが、本人が現在住んでいない住所や送付先が両親または保証人等の可能性があるなど、いくつか問題が生じた。そのため、本人と連絡がとれる手段として SNS を活用した。今回のアンケートの回収率が低かったため、より多くの者に回答していただけるようなアンケートの依頼方法を考える。

短大の授業においてためになった点としては、ピアノや人との関わり方等があげられた。また教員との出

会という回答もあった。そして大学全体として良かった点としては、ピアノについてのこと、教員と学生との距離感、教職員との出会いなどの回答を得た。本学のアピールポイントの1つである教員と学生との距離が近いということにおいては、卒業生も感じていることである。そのため、いつでも帰って来ることができる、卒業後も相談ができる教職員がいるという関係性を今後も続けていく必要があると考える。

短大の授業においてやって欲しかった点としては、書類等の書き方や制作物、療育に関すること等の回答であった。また、学校全体に対しての意見については、トイレが汚いや寒い、全体的に暗い、指導が不十分に感じる等の回答であった。書類等の書き方や療育についてなどは、授業で取り扱っていないわけではない。しかし、そういったことに特化した科目を開講することは2年間という限られた時間の中では難しいのが現状である。今回の意見を教職員で共有し、各々が対応できるようにしていく必要があると考える。

卒業生にアンケートを実施し、様々な意見を得ることができた。現在ではすでに改善されているものもあるが、実際に社会人となって感じた意見を素直にいただけたことは喜ばしいことである。また、後輩のため、学校のためにと具体的な内容での回答を得られたことは、これまでの教職員との関係性にあると考える。今回得た回答を真摯に受け止め、原田学園が今後発展していくために活用していく必要がある。今後も卒業生がいつでも帰って来ることができる学校として、充実させていく必要がある。

6 産業界等社会からの視点を含めた、プログラム内容・手法について

6-1 ステークホルダーに対して外部評価を行っている。

外部評価の実施について、下記のとおりステークホルダーに対して外部評価を行っている。また、外部評価の結果をFD・SDワークショップで報告し全学的に情報共有を図っている。

高校教員にSociety5.0の取組について確認してきたところ、Society5.0に関して「保育(教育)現場において、ICT活用による作業効率化ができる人材の育成」を希望としているが、本学の特色を十分に活かしきれていないことがわかった。本学の特色に関する説明資料を早急に作成し広報活動などで活用する。

5. 外部評価（地域・高大接続連携校）

岡山短期大学は「現場に即応できる保育者を養成」を教育方針として「資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を意識し、保育指針の「乳児・1歳以上3歳未満児の保育」を理解し、乳児期の保育や子どもの育ちをとらえて、乳幼児期への学びの連続性を考えることができる保育者を養成している。この方針を基に本学の具体的な取り組みを学外にも公表し、学習成果の獲得に向けて改善・充実を図っている。その取り組みに対する意見等を令和元年度は高大接続連携校に、令和2,3年度は地域の指定校に調査した。

今年度も教育目標に関する具体的な取り組みについて連携が効果的になる方法を模索することを目的とした。

5-1 外部評価に関する具体的内容の検討と経過

(1) 調査に関する流れ

- ① アンケート用紙を返信していただく形をとる。
- ② アンケート内容をまとめ、各校に集計結果概要を報告する。
- (3) アンケート集計（資料10）

5-2 結果と課題

今年度は高大連携校6校に依頼した。その結果、期限内に3校の返送があった。他の高校には返送依頼中である。会議の報告までに返信が間に合わなかったのは、諸事情によりアンケート依頼の日程が大幅に遅れたためである。

今回のアンケート項目は連携校からの入学生に対し高校との関わりや在学生の様子を確認し、事後評価することであった。前年度までは5段階評価を重視したが、今回は記述のみの形とした。結果、入学前学習に「保育士の心得、近年の保育（教育）業界の動向」に関する内容を追加する案、入試の仕組みとして指定校と高大接続連携校を合体する案を提示いただいた。大学の学

びに関する強化項目として「子どもとのコミュニケーション能力、早期離職をしないための心得や意志の涵養」や在校生と本学在學生との交流として「本校教員へのメッセージカードを本校在學生向けにもメッセージ等をいただくとアピールになる」というご意見をいただいた。「意思の涵養」に関しては2年間でどのように取り組むのが最善か、担当者として具体案を提示するには時間が足りなかった。また、Society5.0に関して「保育(教育)現場において、ICT活用による作業効率化ができる人材の育成」を希望されている。

3校のうち1校は「特に問題ない」が多かったため次期高校訪問で今まで以上に説明を加えご理解いただくのもよいであろう。本学の指導について各校にご理解いただけたように感じるが、前回も報告したように「社会の求める人材であるか否か、教育目標等が社会の実状にあっているかどうか」への懸念点は今年度も拭えない。

自他評価の比較から解決・改善点を具体的に分析できるように外部評価に関する調査項目を検討したい。

「数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること」について

ソサエティ5.0理解の授業で、保育職の専門職の現場を意識したソサエティ5.0時代の時事トレンドを発信し、履修生の数理・データサイエンス・AI教育に対する好奇心の向上を図っている。年3回の推進委員会の課題及び解決策の内容は、プログラムの改善に活用している。

「内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること」について

数理・データサイエンス・AI教育推進委員会でより「分かりやすい」授業をすることに対してPDCAサイクルを廻している。構成員だけでなく、全教員が本プログラムの推進を図るため、学科FD会議で進捗状況及び学修成果達成状況を確認しプログラム向上・充実を図るPDCAサイクルを廻す。